



人々の喜びや
感動のシーンの
お手伝いができたら
うれしいです。

中谷泰之さん

京都生まれの京都育ち。寺町二条に明治から続く中谷徽章堂の4代目。子どもの頃からろう付けなど、家業を手伝ってきた。大学で経営学を学んだあと一般企業に勤めるが、2000年、父から家業を引き継ぎ、弟とともに店を経営している。

縁の下の 力もち

人を讀める心やつながら。

目に見えない思いをメダルや社章、トロフィーで表す徽章店

京都マラソンのメダルや、金に輝くトロフィーやクリスタルの盾がショーウィンドーに並ぶ。晴れがましい「徽章店」は、気になる存在だ。よく見ると校章や社章のバッジもある。そもそも「徽章」とはなんだろうか。

「帽子や服につけて、学校や身分、職業などを表すのが本来の徽章の役割です」と説明するのは、寺町二条で曾祖父の代から徽章店を営む中谷徽章堂の中谷泰之さん。明治の創業当初は帽章、ポタン、バックルなどを作っていたが、その後、時代の流れで、優勝トロフィーや盾などを扱うようになった。日本の徽章史そのもののような老舗だ。

金属性のバッジは金型づくりからプレス、七宝まで、一つのバッ



京都マラソンのメダルを手掛けるのは京都の徽章店ならではの。「京都の徽章組合で受注しますが、私のデザインが採用されたことも」と中谷さん。マラソン大会を支える存在に徽章店がある。

社章や校章の数々。「七宝で出せる色は限られています。コーポレートカラーのような特殊な色がかきれいに出色るとうれしいですね。」



他者から認められ、誉められることによって成長する人も少なくない。そんな過程を、まさに縁の下で支えているのが徽章店の仕事なのである。

ジが出来るまで実に8人以上の職人の手を経る。納期に合うよう職人たちを束ね上げるのが中谷さんの腕の見せどころだ。
中谷さんのところに、「中学のとき部活動で表彰された盾が中谷さんの店のものだった。何十年経った今も大切に持っているよ」といった声が届くことがある。中谷さんにとって、うれしい瞬間だ。
人を讀え、勝利の高揚感という見えないものを形に表したトロフィー。バッジも人と人との見えない関係性を見える形にしている。

Tomorrow's solutions, today



はたらきを化学する。



私も力もちです

じつは、三洋化成の社章バッジは、中谷徽章堂製です。中谷徽章堂と同様に、三洋化成もまた、暮らしや産業のさまざまな分野を支えています。

三洋化成工業株式会社

京都市東山区一橋野本町11-1

最寄りバス停は「泉涌寺道」

Twitter 始めました

@sanyochemical

当社は今年70周年

4月1日より、社章とロゴを新しくしました。

